

2017年度 第2四半期 決算説明会

富士フイルム ホールディングス株式会社

2017年10月31日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

2017年度上期 業績 (2017年4月～9月)

(単位：億円)

	2016年度上期	2017年度上期	対2016年度上期	為替影響	為替影響除く
売上高	11,136 100.0%	11,879 100.0%	743 +6.7%	308	435 +3.9%
営業利益	674 6.0%	759 6.4%	85 +12.7%	47	38 +5.6%
税金等調整前 四半期純利益	644 5.8%	1,002 8.4%	358 +55.7%	138	220 +34.2%
当社株主帰属 四半期純利益	344 3.1%	709 6.0%	365 2.1倍	96	269 +78.4%
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益	76.54円	161.92円	85.38円	＜その他増減要因（対前年度）＞ 営業利益 原材料：-28億円	
為替：米ドル	105円	111円	6円安		
為替：ユーロ	118円	126円	8円安		

2017年度上期の売上高は、電子映像事業、メディカルシステム事業、電子材料事業などで売上を伸ばし、前年比6.7%増の1兆1,879億円となりました。

営業利益については、各事業において収益性の改善を進め、前年比12.7%増の759億円となりました。

税金等調整前四半期純利益は、第1四半期に和光純薬工業の連結子会社化による和光株式の評価益を計上したことなどにより、前年比55.7%増の1,002億円、当社株主帰属四半期純利益は、前年比2.1倍の709億円と大幅増益となりました。

セグメント別 連結売上高／営業利益

(単位：億円)

売上高	上期		対前年度	為替影響	為替影響除く
	2016年度	2017年度			
イメージング	1,543	1,748	205 (+13.3%)	82	123 (+8.0%)
ヘルスケア	1,705	2,008	303 (+17.7%)	52	251 (+14.7%)
インフォメーション	4,220	4,808	588 (+13.9%)	138	450 (+10.7%)
ドキュメント	5,373	5,323	-50 (-0.9%)	88	-138 (-2.6%)
合計	11,136	11,879	743 (+6.7%)	308	435 (+3.9%)

*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益	上期		対前年度	為替影響	為替影響除く
	2016年度	2017年度			
イメージング	92	239	147 (2.6倍)	34	113 (2.2倍)
ヘルスケア	4	19	15 (4.6倍)	12	3 (+65.3%)
インフォメーション	327	380	53 (+16.3%)	38	15 (+4.7%)
ドキュメント	405	291	-114 (-28.2%)	-24	-90 (-22.1%)
全社/連結調整	-150	-151	-1	-1	0
合計	674	759	85 (+12.7%)	47	38 (+5.6%)

続いて、セグメント別の状況についてご説明します。

イメージング ソリューション部門の売上高は、
前年比13.3%増の1,748億円、
営業利益は、前年比2.6倍の239億円となりました。

インフォメーション ソリューション部門の売上高は、
前年比13.9%増の4,808億円
営業利益は、前年比16.3%増の380億円となりました。

インフォメーション ソリューション部門のうち、ヘルスケアの売上高は
前年比17.7%増の2,008億円、
営業利益は、前年比4.6倍の19億円となりました。

ドキュメント ソリューション部門の売上高は、
前年比0.9%減の5,323億円、
営業利益は前年比28.2%減の291億円となりました。

セグメント別 概況

■ イメージング ソリューション

売上高	対前年度	営業利益	前年比
1,748	205 (+13.3%)	239	147 (2.6倍)

- ・ フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”とチェキフィルムのインスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に好調に推移。「WALL DECOR」「フォトブック」などの付加価値プリントビジネスも堅調。
- ・ 電子映像では、2月発売の大型センサー搭載中判ミラーレス「FUJIFILM GFX 50S」や「FUJIFILM X-T20」を中心にミラーレスデジタルカメラ及び交換レンズの販売が好調。
- ・ 光学デバイスでは、各種産業用レンズの販売が堅調に推移。シネマカメラ用レンズでは、7月から販売を開始した「MK50-135mm T2.9」が好評で売上が伸長。

電子映像事業の売上が大幅に増加。
各事業も好調に推移し、増収大幅増益

まずイメージング ソリューション部門についてご説明します。

フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”、チェキフィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に引き続き好調に推移しました。また、「WALL DECOR(ウォールデコ)」「フォトブック」などの付加価値プリントビジネスも堅調に推移しました。

電子映像では、2月に発売した大型センサー搭載中判ミラーレス「FUJIFILM GFX 50S」や「FUJIFILM X-T20」「FUJIFILM X100F」を中心としたXシリーズのミラーレスデジタルカメラおよび交換レンズの販売が好調に推移し、売上が増加しました。人々の記憶に残る鮮やかな色を再現する独自技術による圧倒的な描写力や、25種と幅広いレンズのラインアップがプロ写真家や写真愛好家から高く評価されています。

光学デバイスでは、監視カメラ用や車載用などの各種産業用レンズの販売が堅調に推移しました。また、7月に販売を開始したシネマカメラ用レンズ「MK50-135mm T2.9」が、Web用など市場が拡大している新興映像・制作分野で好評で、売上が伸長しました。

イメージング ソリューション部門は、電子映像事業が大幅に売り上げを伸ばしたほか、各事業の販売が好調に推移し、対前年増収大幅増益となりました。

セグメント別 概況

■インフォメーション ソリューション

売上高	対前年度	営業利益	前年比
4,808	588 (+13.9%)	380	53 (+16.3%)

- ・ヘルスケアで、メディカルシステムは、体外診断(IVD)システム、内視鏡を始めとした各分野で販売が好調に推移。バイオCDMOでは、バイオ医薬品のプロセス開発・製造受託が好調に推移。医薬品は、FF-10832の臨床第 I 相試験を2018年より米国で実施することを決定するなどパイプラインの開発を着実に推進。再生医療は、「ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング」の販売が好調に推移、売上に貢献。
- ・高機能材料で、ディスプレイ材料は、在庫調整などの影響でタック製品の販売は減少したが、有機EL関連などの新規分野での販売が好調に推移し、売上はほぼ横ばい。産業機材は、「エクスクリア」の販売が好調。電子材料は現像液や処理剤などフォトリソ周辺材料の先端製品を中心に販売が好調に推移し、売上が増加。ファインケミカル事業では、重合材料等の化成品の売上が伸長。
- ・記録メディアは、データストレージ用磁気テープの販売が堅調に推移し、売上が増加。
- ・グラフィックシステムは、製版・刷版材料の総需要減により売上は減少。刷版材料は、無処理版など高付加価値製品およびデジタルプレスの拡販を進める。インクジェット事業はインク及び産業用インクジェットヘッドなどの販売が好調に推移。

メディカルシステム事業・電子材料事業などでの販売好調に加え
各事業の収益性向上により増収増益

続いてインフォメーション ソリューション部門です。

ヘルスケアのうち、メディカルシステムは、成長分野である体外診断(IVD)システム、内視鏡を始めとした各分野で販売が好調に推移しました。

バイオCDMOは、バイオ医薬品のプロセス開発・製造受託が好調に推移しました。

医薬品は、FF-10832の臨床第 I 相試験を2018年に米国で開始することを決定するなど、パイプラインの開発を着実に推進しています。

再生医療は、「ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング」の販売が好調に推移、売上に貢献しました。

ライフサイエンスは、美白化粧水「アスタリフト ホワイト ブライトローション」や機能性表示食品「メタバリアS」などの販売が好調に推移し、売上が増加しました。

高機能材料のうち、ディスプレイ材料は、在庫調整などの影響でタック製品の販売は減少しましたが、有機EL関連などの新規分野での販売が伸長し、売上はほぼ横ばいとなりました。

産業機材は、「エクスクリア」の販売が好調に推移しました。

電子材料は、現像液や処理剤などフォトリソ周辺材料の先端製品を中心に販売が好調に推移し、売上が増加しました。半導体市場が拡大する中、幅広い製品ラインアップで市場成長率を上回る高い成長を実現しています。

ファインケミカルは、重合材料等の化成品の売上が伸長しました。

記録メディアは、独自技術に基づく「BaFe（バリウムフェライト）磁性体」を使用したデータストレージ用磁気テープの販売が堅調に推移し、売上が増加しました。

グラフィックシステムでは、製版・刷版材料の総需要減により売上は減少しました。刷版材料については、高い環境性能を持つ無処理版などの高付加価値製品、およびデジタルプレスの拡販を進めていきます。

インクジェットは、インク及び産業用インクジェットヘッドなどの販売が堅調に推移しました。これまで注力してきた分野に加え、テキスタイルなど新たな領域へ独自の製品を展開し、事業を拡大していきます。

インフォメーション ソリューション部門は、電子材料事業やメディカルシステム事業などで売り上げを伸ばしたことに加え、各事業の収益性向上により増収増益となりました。

セグメント別 概況

■ ドキュメント ソリューション

売上高	対前年度	営業利益	前年比
5,323	-50 (-0.9%)	291	-114 (-28.2%)

- オフィスプロダクト&プリンター事業のうち、オフィスプロダクト分野の複合機の販売は、日本やオセアニア地域で販売が減少したものの、欧米向け輸出における新製品や中国での販売が好調に推移し、全体では前年並み。オフィスプリンター分野では、日本、アジア・オセアニア地域での製品ミックスの上位シフトにより台数、売上が減少したものの、欧米向け輸出は、新製品を中心に、カラープリンターの販売台数、売上が好調に推移。
- プロダクションサービス事業では、欧米向けの販売台数は減少したが、中国での販売が引き続き好調に推移。金、銀、クリアトナーなどを搭載し、カタログやマニュアル、販促印刷物など多彩なカラー出力ニーズに応える「Iridesse Production Press」を発売開始予定。
- ソリューション&サービス事業は、アジア・オセアニア地域で売上は減少したが、国内では業種・業務別ソリューションの販売が堅調で売上は増加。

オセアニア地域での販売減少により減収
為替や一時費用、オセアニアでの販売減の影響などにより減益

最後に、ドキュメント ソリューション部門についてご説明します。

今期よりセグメントの開示区分をこれまでの「オフィスプロダクト」「オフィスプリンター」「プロダクションサービス」「グローバルサービス」の4つから、「オフィスプロダクト&プリンター」「プロダクションサービス」「ソリューション&サービス」に変更致します。

まず、オフィスプロダクト&プリンター事業のオフィスプロダクト分野では、国内やオセアニア地域で複合機の販売台数が減少したものの、欧米向け輸出で新製品の販売が好調に推移し、全体の販売台数は前年並みとなりました。オフィスプリンター分野では、日本、アジア・オセアニア地域では製品ミックスの上位シフトにより台数、売上が減少しましたが、欧米向け輸出は、新製品を中心に、カラープリンターの販売台数、売上が好調に推移しました。

プロダクションサービス事業は、欧米向け輸出の販売台数は減少となりましたが、中国での販売は引き続き好調に推移しました。

また、10月に発表した、金、銀、クリアトナーなどを搭載し、カタログやマニュアル、販促印刷物など多彩なカラー出力ニーズに応える「Iridesse Production Press」を、日本、アジア・中国地域で順次発売を開始し、シェア拡大を目指します。

ソリューション&サービス事業は、アジア・オセアニア地域で売上が減少しましたが、国内で、業種・業務別ソリューションの販売が堅調に推移し、売上は増加しました。

ドキュメントソリューション部門は、オセアニア地域での一時的な販売減少により減収。また、為替のマイナス影響や第1四半期に発生した市場対策費用の引当、第2四半期末の売掛債権をより保守的に再評価し、貸倒引当金を追加で引当てたことなどにより、減益となりました。引き続き、ソリューション&サービス等の成長領域の拡大や、オセアニア地域での販売回復に努めるとともに、経費削減及び原価改善施策の追加・加速等で収益性を高めていきます。

連結貸借対照表

					(単位：億円)				
	15年度末	16年度末	17年9月末	対16年度末		15年度末	16年度末	17年9月末	対16年度末
現金及び現金同等物	6,009	8,760	6,828	-1,932	長短社債及び借入金	3,657	5,588	5,130	-458
受取債権	6,436	6,358	6,289	-69	支払債務	2,571	2,579	2,424	-155
棚卸資産	3,492	3,392	3,914	522	その他流動固定負債	4,572	4,484	4,443	-41
その他流動資産	1,726	1,838	1,386	-452	負債計	10,800	12,651	11,997	-654
流動資産計	17,663	20,348	18,417	-1,931	株主資本計	20,148	20,436	21,323	887
有形固定資産	5,326	5,206	5,505	299	非支配持分	2,172	2,245	2,387	142
営業権	5,069	4,998	6,019	1,021	純資産計	22,320	22,681	23,710	1,029
投資有価証券 その他資産	5,062	4,780	5,766	986	負債・純資産合計	33,120	35,332	35,707	375
固定資産計	15,457	14,984	17,290	2,306	(単位：円)				
資産合計	33,120	35,332	35,707	375	期末日 為替レート	15年度末	16年度末	17年9月末	対16年度末
					米ドル	113	112	113	1円安
					ユーロ	128	120	133	13円安

次に、バランスシートについてご説明します。

2017年9月末時点の資産合計は、

営業権などの増加により、2017年3月末時点と比べ、375億円増の3兆5,707億円となりました。

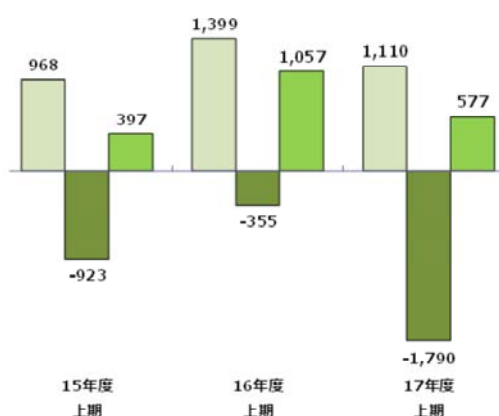
負債は654億円減の1兆1,997億円、株主資本は887億円増の2兆1,323億円となりました。

流動比率は、4.1ポイント減の295.1%、負債比率は5.6ポイント減の56.3%、株主資本比率は1.9ポイント増の59.7%となりました。

キャッシュ・フロー

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー（事業買収除く）

(単位：億円)



	15年度 上期	16年度 上期	17年度 上期
四半期純利益	528	416	775
減価償却費	592	590	616
受取債権の増(-)減(+)	421	502	456
棚卸資産の増(-)減(+)	-59	-92	-278
営業債務の増(+)減(-)	-176	-75	-285
その他	-338	58	-174
営業活動によるC F	968	1,399	1,110
設備投資	-291	-393	-306
ソフトウェアの購入	-121	-106	-96
有価証券・投資有価証券等の 売却・購入	33	291	-96
事業買収	-352	-13	-1,257
その他	-192	-134	-35
投資活動によるC F	-923	-355	-1,790
フリー・キャッシュ・フロー	45	1,044	-680
事業買収除くフリー・キャッシュ・フロー	397	1,057	577

続いて、キャッシュ・フローについてご説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、受取債権の減少などにより、1,110億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、和光純薬工業の事業買収などにより、1,790億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローはマイナス680億円となりました。

2017年度 連結業績予想 (2017年10月31日時点)

(単位：億円)

	2016年度	2017年度	対前年度
売上高	23,222 100%	24,600 100%	1,378 +5.9%
営業利益	1,723 7.4%	1,850 7.5%	127 +7.4%
税金等調整前 当期純利益	1,948 8.4%	2,000 8.1%	52 +2.7%
当社株主帰属 当期純利益	1,315 5.7%	1,250 5.1%	-65 -4.9%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	296.27円	285.55円	-10.72円
ROE	6.5%	6.0%以上	-
為替 : 米ドル	108円	110円	2円安
: ユーロ	119円	123円	4円安
銀価格 (/kg)	59,000円	62,000円	-

* 2017年度 営業利益 為替感応度 米ドル：8億円、ユーロ：8億円

* 下期の為替レートは 米ドル：110円、ユーロ：120円を想定しております。

2017年度の連結業績予想ですが、

2017年6月12日に発表済みの予想からは変更しておりません。

尚、セグメント間の内訳を見直しています。詳細は、29ページの参考資料をご参照ください。

当社業績は、全社トータルでは通期業績予想達成に向けて、順調に進捗しています。

引き続き成長戦略を推進するとともに、さらなる拡販と収益性の改善を強力に進めていきます。

2017年度第2四半期 決算説明会

ガバナンス強化の取り組みについて

ガバナンス強化の取り組み：各施策の進捗状況

■ 強化施策を策定し、運用開始。ガバナンス強化委員会にて継続的に運用状況を確認していく。

領域	施策	進捗
グループ会社管理強化PJ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 取締役会による監督機能強化 ■ グループ会社管理部の設置 ■ FXの地域統括機能再設計 ■ FX海外子会社トップの監督・選任・評価の見直し、報酬チェック ■ FXの計画策定プロセス見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 報告事項の充実⇒10月より運用開始 ■ 8月1日設置、運用開始 ■ 地域統括機能の一部をFX本社直轄化⇒10月より運用開始 ■ 選任プロセス見直し⇒7月より運用開始 ■ 評価制度変更⇒17年度下期より適用開始 ■ 18年度予算より適用開始
経理強化PJ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 管理会計/財務会計機能の分離 ■ FHに財務会計機能を統合/再設計 	<ul style="list-style-type: none"> ■ FF、FXの財務会計機能をFH経理部へ統合⇒9月より運用開始
監査強化PJ	<ul style="list-style-type: none"> ■ FHに内部監査機能統合/グローバル監査実施 ■ J-SOX評価体制統合/内部統制の有効化 ■ FH監査役へのサポート強化を目的とした監査役会室の設置 ■ Gr各社監査役間の連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ グローバル監査部を9月1日に設置、統合監査の運用開始 ■ FF、FXの評価体制をFHへ統合⇒9月より運用開始 ■ 9月1日設置、運用開始 ■ Gr全体の監査役監査要綱の制定と運用具体化を推進中
コンプライアンス強化PJ	<ul style="list-style-type: none"> ■ コンプライアンス教育実施 ■ 内部通報制度の再構築/周知徹底/会計監査人等と情報連携強化 ■ FX関連各社のリスクマネジメント体制の再構築 	<ul style="list-style-type: none"> ■ Gr全従業員を対象とした教育実施⇒11月末完了予定 ■ 既存の各社毎の内部通報制度に加え、Gr共通の内部通報制度を導入⇒年内に窓口開設予定 ■ FX関連各社にリスクマネジメント委員会設置、リスク発生時のFHへのレポート/対応体制の見直し⇒10月より運用開始
ITガバナンス強化PJ	<ul style="list-style-type: none"> ■ IT活用によるモニタリング基盤の整備/コミュニケーション基盤の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ■ システム対応に向けた要件定義を推進中

(注) Gr：富士フィルムホールディングスグループ、FH：富士フィルムホールディングス、FF：富士フィルム、FX：富士ゼロックス

10

コーポレートガバナンス強化の取り組みについて、前回8月30日の新中期経営計画「VISION2019」発表時にお伝えした、5つの強化プロジェクトにおける各施策の進捗状況を説明いたします。

1つ目のグループ会社管理強化PJでは、グループ会社からの重要事項に関する報告体制や承認プロセスの見直しによって、グループ全体の管理・監督の強化を図ります。取締役会による監督機能強化のための報告事項の充実や、富士ゼロックス海外子会社トップの選任プロセスの見直しを開始しています。また、富士ゼロックスの地域統括機能を再設計し、アジア・パシフィック地域を統括するコーポレートスタッフ部門を富士ゼロックス本社直轄とする体制に変更しています。

2つ目の経理強化PJでは、会計処理の適切性を担保し、牽制機能を発揮できる体制の確保を目的として、富士フィルム、富士ゼロックスの財務会計機能を富士フィルムホールディングス経理部に統合し、9月より一体運営を開始しています。

3つ目の監査強化PJでは、グループ全体の監査機能強化を目的として、9月1日付でグローバル監査部を設置し、統合監査の運用を開始しています。また、9月よりJ-SOX評価体制統合を開始したほか、富士フィルムホールディングス監査役へのサポート強化を目的として9月1日付にて監査役会室を設置しました。

4つ目のコンプライアンス強化PJでは、既に実施完了した経営層向けに続いて、グループ全従業員を対象としたコンプライアンス再教育を11月末までに完了する予定です。また、全グループ会社を対象とした新たな内部通報窓口の年内開設を予定しています。なお、富士ゼロックスにおけるリスクマネジメント強化に向けて、富士ゼロックス関連各社にリスクマネジメント委員会を設置するとともに、リスク発生時の富士フィルムホールディングスへのレポート含む対応体制についても見直しを実施し、10月より運用を開始しています。

最後に、ITガバナンス強化PJでは、効果的なIT活用を通じたモニタリングの仕組みや、グループ内の円滑なコミュニケーションのためのインフラ整備の推進に向け、各種システム対応に向けた要件定義を推進しています。

今後も、ガバナンス強化委員会の下、各施策を確実に推進していきます。

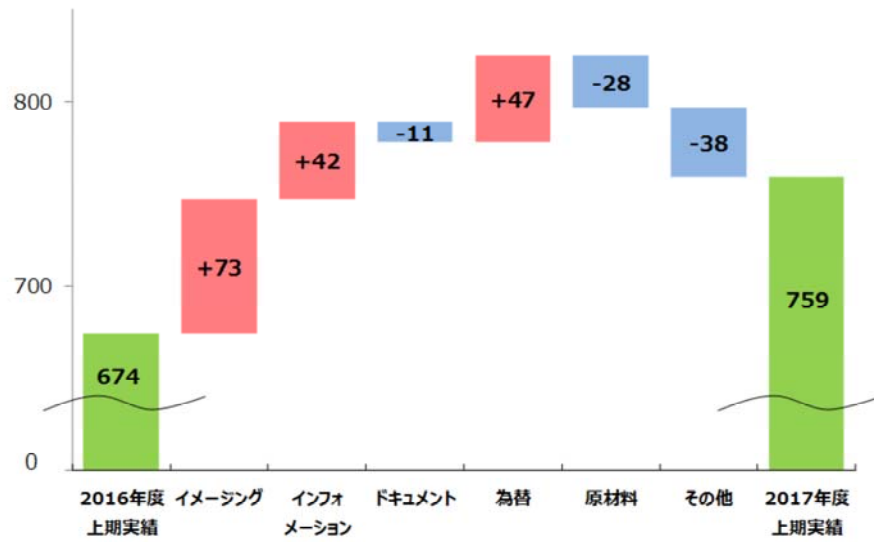
ご静聴いただき、ありがとうございました。

2017年度第2四半期 決算説明会

参考資料

営業利益増減分析(対前年上期実績)

億円



12

<当スライドは配付資料です>

2Q/上期 業績

(単位：億円)

	2016年度2Q	2017年度2Q	対2016年度2Q	2016年度上期	2017年度上期	対2016年度上期
売上高	5,678 100.0%	6,164 100.0%	486 +8.6%	11,136 100.0%	11,879 100.0%	743 +6.7%
営業利益	379 6.7%	401 6.5%	22 +5.8%	674 6.0%	759 6.4%	85 +12.7%
税金等調整前 四半期純利益	408 7.2%	426 6.9%	18 +4.4%	644 5.8%	1,002 8.4%	358 +55.7%
当社株主帰属 四半期純利益	223 3.9%	271 4.4%	48 +21.4%	344 3.1%	709 6.0%	365 2.1倍
為替 : 米ドル	102円	111円	9円安	105円	111円	6円安
: ユーロ	114円	130円	16円安	118円	126円	8円安

<その他増減要因(2Q/上期 対前年度)>

営業利益 原材料：-14億円 / -28億円

<当スライドは配付資料です>

2Q/上期 業績

(単位: 億円)

売上高	2Q			上期		
	2016年度	2017年度	対前年度	2016年度	2017年度	対前年度
イメージング	765	898	133 (+17.4%)	1,543	1,748	205 (+13.3%)
ヘルスケア	902	1,095	193 (+21.3%)	1,705	2,008	303 (+17.7%)
インフォメーション	2,170	2,508	338 (+15.6%)	4,220	4,808	588 (+13.9%)
ドキュメント	2,743	2,758	15 (+0.6%)	5,373	5,323	-50 (-0.9%)
合計	5,678	6,164	486 (+8.6%)	11,136	11,879	743 (+6.7%)

*セグメント間取引消去後

(単位: 億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q			上期		
	2016年度	2017年度	対前年度	2016年度	2017年度	対前年度
イメージング	36 [4.7%]	113 [12.6%]	77 (3.2倍)	92 [6.0%]	239 [13.7%]	147 (2.6倍)
ヘルスケア	14 [1.6%]	27 [2.4%]	13 (+87.6%)	4 [0.2%]	19 [0.9%]	15 (4.6倍)
インフォメーション	176 [8.1%]	191 [7.6%]	15 (+8.0%)	327 [7.7%]	380 [7.9%]	53 (+16.3%)
ドキュメント	243 [8.8%]	174 [6.3%]	-69 (-28.2%)	405 [7.5%]	291 [5.5%]	-114 (-28.2%)
全社/連結調整	-76	-77	-1	-150	-151	-1
合計	379 [6.7%]	401 [6.5%]	22 (+5.8%)	674 [6.0%]	759 [6.4%]	85 (+12.7%)

14

<当スライドは配付資料です>

2Q(3ヶ月) セグメント別 ハイライト

■ イメージング ソリューション

- ・ フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”とチェキフィルムのインスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に好調に推移。
- ・ 電子映像では、ミラーレスデジタルカメラ及び交換レンズの販売が好調。9月にXシリーズ最小・最軽量ボディと刷新されたデザインにより、携帯性と実用性を両立した「FUJIFILM X-E3」をラインアップに追加。

■ インフォメーション ソリューション

- ・ ヘルスケアで、医療システムは、体外診断(IVD)システム、内視鏡を始めとした各分野で販売が好調に推移。バイオCDMOでは、バイオ医薬品のプロセス開発・製造受託が好調に推移。医薬品は、FF-10832の臨床第 I 相試験を2018年より米国で実施することを決定。ライフサイエンスでは、「アスタリフト」の最上位シリーズ「アスタリフト イン・フォーカス」の販売を開始。
- ・ 高機能材料で、ディスプレイ材料は、有機EL関連などの新規分野での販売が好調に推移。産業機材は、「エクスクリア」の販売が好調。電子材料は先端フォトリソ周辺材料の販売が好調に推移し、売上が増加。

■ ドキュメント ソリューション

- ・ 売上高は、オセアニア地域で販売減少となったが、為替のプラス影響に加え、欧米向け輸出や中国での販売が好調に推移。
- ・ 営業利益は、為替のマイナス影響やオセアニア地域での販売減少の影響などにより減益。

<当スライドは配付資料です>

2Q/上期 業績

■ イメージング ソリューション

(単位：億円)

売上高	2Q				上期			
	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く
フォトイメージング	530	586	56 (+10.3%)	11 (+1.8%)	1,067	1,124	57 (+5.2%)	4 (+0.3%)
電子映像	151	214	63 (+42.0%)	45 (+29.8%)	310	437	127 (+41.0%)	106 (+34.3%)
光学デバイス	84	98	14 (+18.7%)	7 (+10.5%)	166	187	21 (+13.3%)	13 (+8.5%)
光学・電子映像	235	312	77 (+33.7%)	52 (+22.9%)	476	624	148 (+31.4%)	119 (+25.3%)
合計	765	898	133 (+17.4%)	63 (+8.3%)	1,543	1,748	205 (+13.3%)	123 (+8.0%)

*セグメント別数値引当後

(単位：億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q				上期			
	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く
イメージング	36 [4.7%]	113 [12.6%]	77 (3.2倍)	47 (2.3倍)	92 [6.0%]	239 [13.7%]	147 (2.6倍)	113 (2.2倍)

16

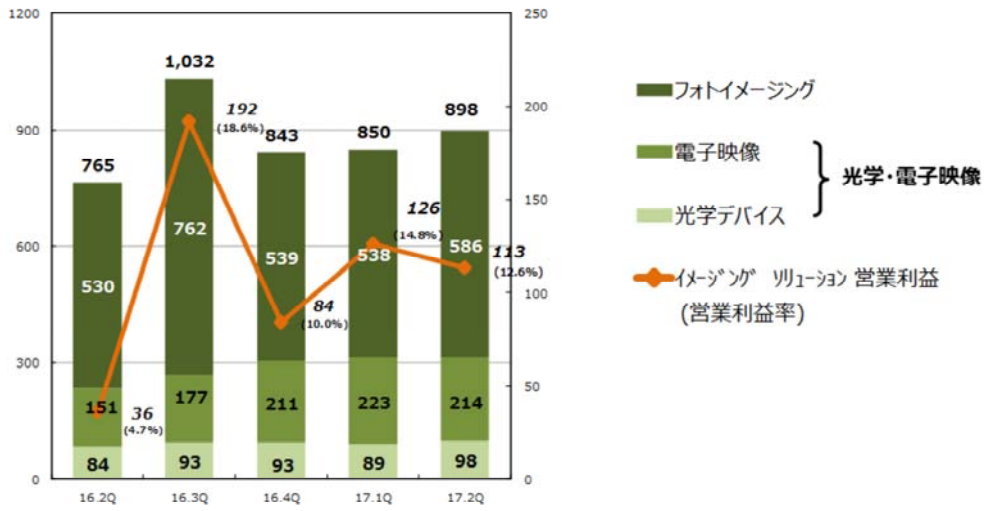
<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ イメージング ソリューション (単位: 億円)

売上高

営業利益



<当スライドは配付資料です>

2Q/上期 業績

■ インフォメーション ソリューション

(単位：億円)

売上高	2Q				上期			
	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く
ヘルスケア	902	1,095	193 (+21.3%)	148 (+16.3%)	1,705	2,008	303 (+17.7%)	251 (+14.7%)
ディスプレイ材料	248	227	-21 (-8.6%)	-21 (-8.6%)	485	470	-15 (-3.1%)	-15 (-3.1%)
産業機械/電子材料 ファインケミカル	265	429	164 (+62.2%)	142 (+53.7%)	518	850	332 (+64.4%)	304 (+58.6%)
高機能材料	513	656	143 (+27.9%)	121 (+23.6%)	1,003	1,320	317 (+31.7%)	289 (+28.9%)
記録メディア	119	105	-14 (-11.1%)	-22 (-18.2%)	217	221	4 (+2.0%)	-7 (-3.2%)
グラフィックシステム/インクジェット	631	650	19 (+3.1%)	-21 (-3.1%)	1,272	1,256	-16 (-1.3%)	-62 (-4.8%)
その他	5	2	-3	-3	23	3	-20	-21
合計	2,170	2,508	338 (+15.6%)	223 (+10.3%)	4,220	4,808	588 (+13.9%)	450 (+10.7%)

*セグメント別数値開示後

(単位：億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q				上期			
	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く
ヘルスケア	14 [1.6%]	27 [2.4%]	13 (+87.6%)	1 (+3.2%)	4 [0.2%]	19 [0.9%]	15 (4.6倍)	3 (+65.3%)
インフォメーション	176 [8.1%]	191 [7.6%]	15 (+8.0%)	-18 (-10.7%)	327 [7.7%]	380 [7.9%]	53 (+16.3%)	15 (+4.7%)

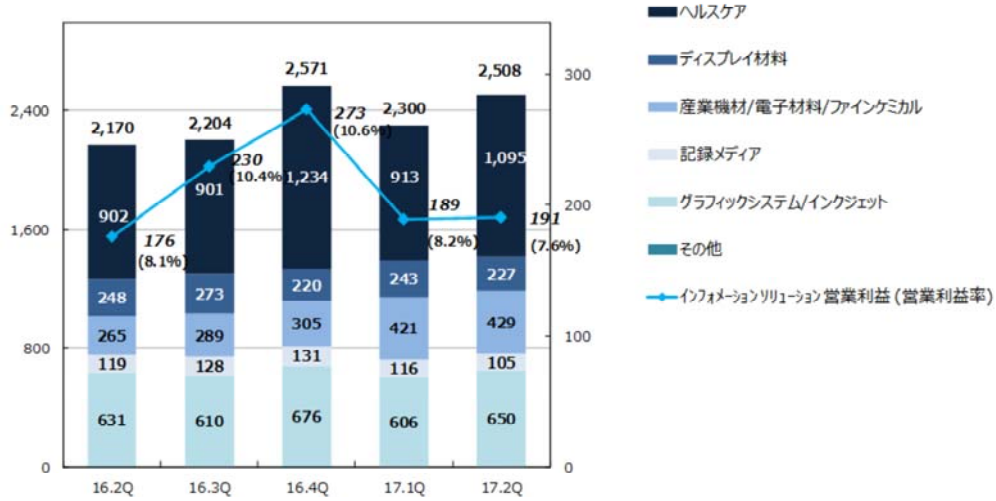
<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ インフォメーション ソリューション (単位：億円)

売上高

営業利益



<当スライドは配付資料です>

2Q/上期 業績

■ ドキュメント ソリューション

(単位:億円)

売上高	2Q				上期			
	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く
オフィスプリンター	415	389	-26 (-6.4%)	-44 (-10.7%)	810	777	-33 (-4.1%)	-52 (-6.5%)
オフィスプロダクト&プリンター	1,582	1,583	1 (+0.1%)	-49 (-3.1%)	3,139	3,104	-35 (-1.1%)	-88 (-2.8%)
フォダクションサービス	354	352	-2 (-0.5%)	-13 (-3.7%)	678	672	-6 (-0.8%)	-17 (-2.5%)
ソリューション&サービス	684	689	5 (+0.7%)	-17 (-2.5%)	1,285	1,285	0 (+0.0%)	-21 (-1.6%)
その他	123	134	11 (+8.6%)	5	271	262	-9 (-3.5%)	-11
合計	2,743	2,758	15 (+0.6%)	-74 (-2.7%)	5,373	5,323	-50 (-0.9%)	-138 (-2.6%)

*セグメント別取引調整後

(単位:億円)

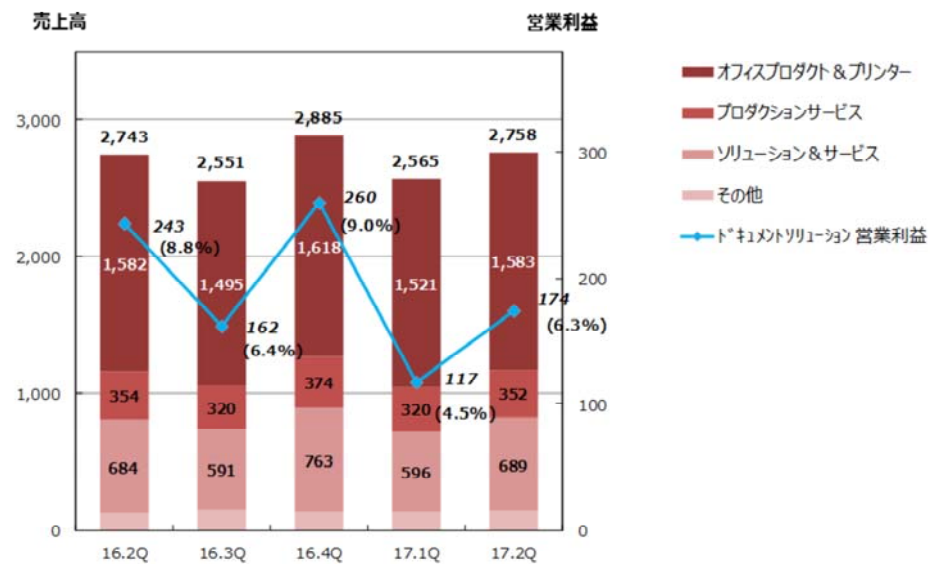
営業利益 【営業利益率】	2Q				上期			
	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く
ドキュメント	243 [8.8%]	174 [6.3%]	-69 (-28.2%)	-63 (-25.7%)	405 [7.5%]	291 [5.5%]	-114 (-28.2%)	-90 (-22.1%)

20

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ ドキュメントソリューション (単位: 億円)



<当スライドは配付資料です>

国内・海外別連結売上高

(単位：億円)

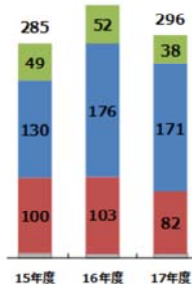
	2016年度 上期		2017年度 上期		対前年度	
	構成比(%)		構成比(%)			
日本	41.4%	4,606	41.2%	4,895	289	(+6.3%)
米州	19.5%	2,175	19.4%	2,300	125	(+5.7%)
欧州	11.2%	1,251	12.1%	1,444	193	(+15.5%)
内、中国	11.6%	1,293	12.2%	1,450	157	(+12.1%)
アジア他	27.9%	3,104	27.3%	3,240	136	(+4.4%)
海外	58.6%	6,530	58.8%	6,984	454	(+7.0%)
合計	100.0%	11,136	100.0%	11,879	743	(+6.7%)

22

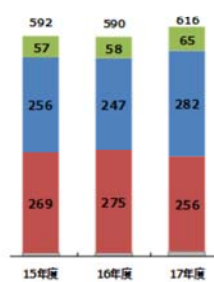
<当スライドは配付資料です>

設備投資、減価償却費

設備投資（上期） 336



減価償却費（上期）



(単位：億円)

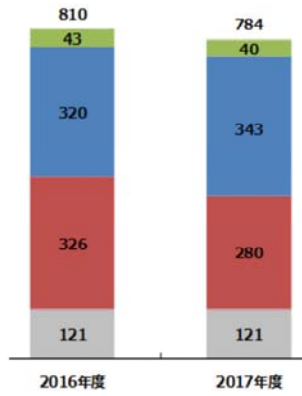
年度	2Q			上期			通期		
	2015	2016	2017	2015	2016	2017	2015	2016	2017 (予想)
イメーシング	31	31	21	49	52	38	102	103	
インフォメーション	59	80	96	130	176	171	393	401	
ドキュメント	63	60	39	100	103	82	233	200	
コーポレート	4	4	3	6	5	5	13	14	
設備投資 ※	157	175	159	285	336	296	741	718	880
イメーシング	26	29	32	57	58	65	129	111	
インフォメーション	130	121	142	256	247	282	520	491	
ドキュメント	136	130	128	269	275	256	581	553	
コーポレート	5	5	7	10	10	13	20	21	
減価償却費	297	285	309	592	590	616	1,250	1,176	1,100
有形固定資産の減価償却費 ※	155	147	166	307	289	328	658	589	

※ ドキュメントソリューション部門等のレンタル資産を除く。

<当スライドは配付資料です>

研究開発費、販売費及び一般管理費

研究開発費（上期）



(単位：億円)

年度	2Q		上期		通期	
	2016	2017	2016	2017	2016	2017 (予想)
イメーシング	21	24	43	40	82	
インフォメーション	168	184	320	343	662	
ドキュメント	162	142	326	280	615	
コーポレート	61	61	121	121	243	
研究開発費	412	411	810	784	1,602	1,660
<売上高比>	7.3%	6.7%	7.3%	6.6%	6.9%	6.7%
販売費及び一般管理費	1,490	1,611	3,001	3,190	5,981	
<売上高比>	26.2%	26.1%	27.0%	26.8%	25.8%	

- イメーシングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

24

<当スライドは配付資料です>

為替、原材料価格、人員

為替

(単位：円)

	2016年度					2017年度				
	1Q	2Q	上期	下期	通期	1Q	2Q	上期	下期(予想)	通期(予想)
米ドル	108	102	105	111	108	111	111	111	110	110
ユーロ	122	114	118	119	119	122	130	126	120	123

原材料価格 (平均)

(単位：千円/kg)

	2016年度					2017年度				
	1Q	2Q	上期	下期	通期	1Q	2Q	上期	下期(予想)	通期(予想)
銀	57	63	59	60	59	63	60	62	62	62

人員

(単位：人)

	2016.9末	2016.12末	2017.3末	2017.6末	2017.9末
連結	78,976	78,665	78,501	80,672	80,315

<当スライドは配付資料です>

2016年度2Q/上期決算における過年度修正

(単位：億円)

	修正前 2016年度2Q	2016年度2Q	対修正前 2016年度2Q	修正前 2016年度上期	2016年度上期	対修正前 2016年度上期
売上高	5,739 100.0%	5,678 100.0%	-61	11,209 100.0%	11,136 100.0%	-73
営業利益	359 6.3%	379 6.7%	20	635 5.7%	674 6.0%	39
税金等調整前 当期純利益	389 6.8%	408 7.2%	19	606 5.4%	644 5.8%	38
当社株主帰属 当期純利益	223 3.9%	223 3.9%	0	335 3.0%	344 3.1%	9
為替 : 米ドル	102円	102円		105円	105円	
: ユーロ	114円	114円		118円	118円	

26

<当スライドは配付資料です>

2017年度 セグメント別業績予想 (2017年10月31日時点)

(単位:億円)

売上高	2016年度	2017年度 (前回予想)	2017年度	対前回予想	対前年度
イメージング	3,418	3,500	3,700	200	282 (+8.3%)
ヘルスケア	3,840	4,350	4,450	100	610 (+15.9%)
インフォメーション	8,995	10,100	10,100	0	1,105 (+12.3%)
ドキュメント	10,809	11,000	10,800	-200	-9 (-0.1%)
合計	23,222	24,600	24,600	0	1,378 (+5.9%)

*セグメント間取引消去後

営業利益	2016年度	2017年度 (前回予想)	2017年度	対前回予想	対前年度
イメージング	368	430	490	60	122 (+33.0%)
ヘルスケア	124	150	200	50	76 (+61.3%)
インフォメーション	830	880	930	50	100 (+12.1%)
ドキュメント	827	860	740	-120	-87 (-10.5%)
全社/連結調整	-302	-320	-310	10	-8
合計	1,723	1,850	1,850	0	127 (+7.4%)

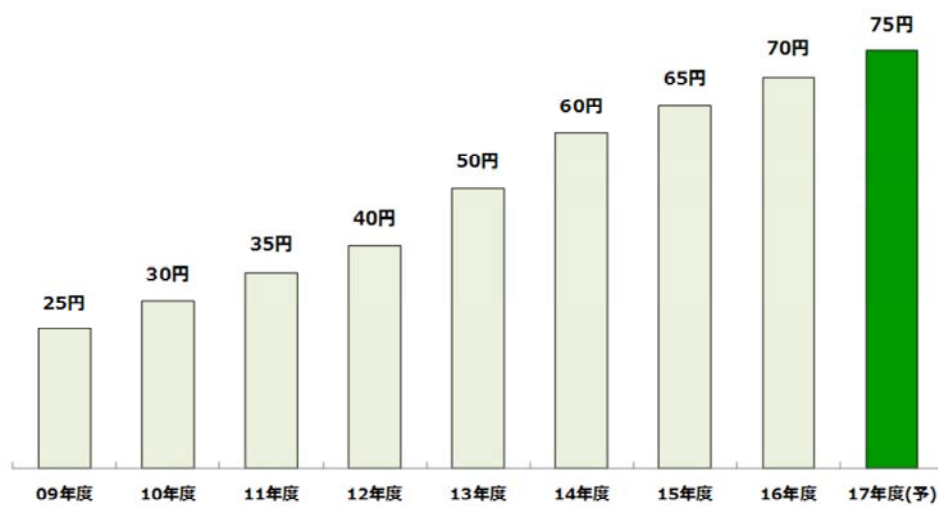
27

<当スライドは配付資料です>

株主還元

■ 配当金

2017年度の配当金は、8期連続増配となる対前年5円増配の75円/株を予定



<当スライドは配付資料です>

パイプライン (2017年10月31日時点)

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階
T-705	抗インフルエンザウイルス薬	経口	日本	承認済み
			米国	Ph III 実施中
T-3811	キノロン系合成抗菌薬	経口	中国	承認申請中
T-2307	抗真菌薬	注射	米国	Ph I 終了
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	米国	Ph II 終了
			日本	Ph II 終了
T-4288	新規フルオロケトライド系抗菌薬	経口	日本	Ph III 実施中
ITK-1	去勢抵抗性前立腺がん治療薬	注射	日本	Ph III 実施中
FF-10501	再発・難治性骨髄異形成症候群治療薬	経口	日本	Ph I 終了
			米国	Ph II 実施中
FF-10502	進行・再発膵がん/卵巣がん治療薬	注射	米国	Ph I 実施中
			欧/日	Ph I 準備中
FF-21101	進行・再発固形がん治療薬 (Armed抗体)	注射	米国	Ph I 実施中
			日	Ph I 準備中
F-1311	前立腺がん診断薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph II 終了
FF-10101	再発・難治性急性骨髄性白血病治療薬	経口	米国	Ph I 実施中
F-1515	神経内分泌腫瘍治療薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph I 実施中
FF-10102	自己免疫疾患治療薬	経口	米/欧/日	非臨床試験実施中
FF-10832	進行性固形がん治療薬 (ゲムシタピリンポリソーム)	注射	米国	非臨床試験実施中

※持分法適用会社の協和キリン富士フィルムバイオロジクス (FKB) のFKB327 (アダリムマブバイオシミラー) は、欧州申請中。FKBとアストラゼネカ社のJ.V.のFKB238 (ベバシマブバイオシミラー) は、米国、欧州、その他でPh III実施中。

29

<当スライドは配付資料です>

参考情報

富士フィルムホールディングス 株主・投資家情報

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

富士フィルムホールディングス アニュアルレポート2016

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/annual_reports/2016/index.html

IRイベント資料

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/business_presentations/index.html

・事業説明会資料

- 2016年 5月 ドキュメント事業説明会
- 2016年 12月 医薬品・再生医療事業説明会
- 2017年 3月 エレクトロニクスマテリアルズ (EM) 事業説明会

富士フィルムってどんな会社？

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual_guidance/index.html

30

<当スライドは配付資料です>

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社
経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>